第５期関市まちづくり市民会議

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 5 期関市まちづくり市民会議は、平成 28 年 11 月にスタート。毎月 1 回第 3 土曜日に全体会、そして必要に応じて部会を開催し、これまで 10 回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、14 名の公募の市民により構成されています。20 代～80 代の幅広い年齢層となっております。

今期の市民会議は、第 4 期から引き続き、実践に重きを置きました。関市の課題を考え、それに対する解決策を考え、実践してみた結果を元に関市への政策提案を行います。実践をしたことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても実体験を元に検討する事ができています。

部会名	取組む課題
チーム「目指せ！体験型商店街」	大人も子どもも商店街の魅力を知らない
チーム「小瀬・池尻周遊観光」	小瀬・池尻地域の遺跡や円空がごく一部の人にしか知られていない。
チーム「新入生いらっしゃい」	関の店舗やイベント情報を知る機会がない、学校と関市との接点がない。

〈まちづくり市民会議の歩み　～主に全体会～〉

	開催日	会議内容
第 1 回	平成 28 年 11 月 19 日	問題意識の発表会
第 2 回	12 月 17 日	部会分け、地域課題を議論する
第 3 回	平成 29 年 1 月 21 日	目指す姿・課題の原因を考える、行政へのヒアリング
第 4 回	2 月 18 日	事業を考える
第 5 回	3 月	部会別活動　事業を考える
第 6 回	4 月	部会別活動　事業の実施方法を考える
第 7 回	5 月	部会別活動　事業実施
第 8 回	6 月 18 日	政策提案を考える
第 9 回	7 月	部会活動　政策提案を考える

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第 4 期のまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

【第 1 期】

提案 1

「親子読書コンクール」（学校教育課）

概要）夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	平成25年8月27日に「ファミリー読書発表会」を開催しました。学校等から推薦のあった家族（3～4組）の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表をしました。 今年度は8月27日（木）に開催します。

提案 2

「子どもたちの地域間交流」（学校教育課）

概要）市内の小学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用（既存の事業を拡充します）
担当課からの回答	平成 24 年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。

提案 3

「学校のＨＰの改革」（学校教育課）

概要）学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とＰＴＡ、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26 年度に、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。

提案4

「ＳＮＳを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」（学校教育課）

概要）親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebook グループ等の SNS を活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとどうしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」（学校教育課）

概要）日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師が一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ（たとえば、綱引きや玉入れ）を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」（小・中）やタグラグビー（小）、水泳記録会（小・中）、「わたしの主張大会」（中）のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思います。

提案6

「関シティバス・デマンドバスの導入」（市民協働課）

概要）利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	現在 4 地域（富野、田原、迫間、向山）で導入している簡易型デマンド運行バスは、10 人から15 人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。 現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記 3 路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度導入しました。

提案 7

「シティバス・定期乗車券の導入」（市民協働課）

概要）公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割り引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。 なお、現在、シティバスの回数券（100 円券が 11 枚綴りで 1,000 円）を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。

提案 8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」（市民協働課）

概要）持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	長良川鉄道につきましては、マイレール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいていますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。 現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいていますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。

提案9 「関シティバス・観光事業との連携」（市民協働課）

概要）新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。１日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案10 「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」（市民協働課）

概要）観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成 26 年 3 月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長（取締役）に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第２期】

提案1 「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定ＮＰＯ法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案2 「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案3 「関市版キッザニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでＴシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。（学校教育課） 関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間（８月２６日～２９日）に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。（商工課）

提案4

「キャリア教育の日の制定（学校教育課）

概要）市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。（学校教育課）

提案5

「市長、部長インターンシップ」（職員課）

概要）関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	提案された内容を実施可能な形にするため、募集人員、期間、交通費について一部修正させていただき、今年度実施予定です。活動報告会については、まちづくり市民会議のみなさんが主体となって開催を検討していただきたい。（職員課）

提案6

「学生による投票率アップチームを結成」（総務管財課）

概要）若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成２６年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や関まつりで投票率アップのための啓発活動を行いました。（総務管財課）

提案7

「高齢者いつでもサロン」（市民協働課、高齢福祉課）

概要）高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組でいる地域委員会（概ね小学校区を単位として設置）の取り組みとして提案していきたい。（市民協働課） 提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。（高齢福祉課）

提案8 「好きなことバンクと助け合いポイント制度」（企画政策課、高齢福祉課）

概要）高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。（企画政策課） シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。（高齢福祉課）

提案9 「地域コーディネーター育成事業」（高齢福祉課）

概要）提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。（高齢福祉課） 地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。（生涯学習課）

提案10

「幸せ創造授業」（学校教育課）

概要）子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」ついて考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。

提案11

「幸せ実現企業」（商工課）

概要）提案 10 で出た中学生からのアイディアを関市の企業が本気で実現する場「ビジネスアイディアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているので、提案の報告をしながら検討してまいります。（商工課）

提案12

「幸せ応援行政」（商工課）

概要）提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業２にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第３期】

提案1

「関のグルメの新提案　関デカ盛りプロジェクト」（観光交流課）

概要）各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供する。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市（行政が）中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。 →（現在の状況）今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。

提案2

「小瀬鵜飼コンパ開催」（観光交流課）

概要）千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が出会う機会を創出。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課（公民館）における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。 →（現在の状況）今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。

提案3
提案4

「わかもの活躍サポートセンターの設置」（市民協働課）

概要）市内に点在し、活動時間も様々な若者を集めるにはどうしたらよいのでしょうかます。高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してはどうかと考えました。

「若者まちづくり会議の開催」（市民協働課）

概要）関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のＪＫ課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも設置してはどうかと考えました。

結果	採用
担当課からの回答	この関市市民活動センターにおける若者支援の役割を強化させることは重要ですので、若者に特化した事業を来年度から試行的に実施します。 →（現在の状況） 今年度、市民活動センターが若者まちづくり会議を実施予定です。 また、今年度より関市では、市内の高校生（主に関、関有知、関商工）を対象とした若者協働推進事業「まちづくり倶楽部」が始まりました。毎月テーマの異なるイベントに参加し、関市やまちづくりに関することを気軽に楽しく学んでもらうことで、将来のことを考え積極的に活動できる若者を育成することをねらいとしています。継続的な事業を予定しており、長期的には、市政に対する協力・提案など、未来の関市のリーダーとなる若者を育成していきたいと考えています。 また随時、参加する高校生からの提案・意見を受け付けており、毎月のイベント内容に反映していく予定です。

提案5

「新ブランド『刃モノ一生モノ』の設立」（商工課）

概要）新ブランドとして『刃モノ一生モノ』を立ち上げます。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	現状、不採用

担当課からの回答	→（現在の状況）関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思います。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えております。

提案5

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」（商工課）

概要）関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ります。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思います。

提案7

「わがまち防災会議の開催」（危機管理課）

概要）市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催する。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを３年毎に実施する。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	地域で起こりうる災害を学び、訓練が実施できるよう、地域委員会や自治会連合会支部などに対して、先進地区の事例などを紹介したいと考えます。また、すでにある防災訓練補助金を有効に活用いただき、防災会議等が実施できるよう要綱の見直しや予算確保に努めます。さらに、提案をいただきました防災会議の講師紹介なども、市として積極的に行います。 【回答】 →（現在の状況）多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。

提案8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」（危機管理課）

概要）運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用ＤＶＤとともに防災啓発用ＤＶＤを視聴してもらう。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず３～５年に１度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となる。

結果	不採用
担当課からの回答	関市で実際に発生した災害を題材とするＤＶＤについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、ＤＶＤの制作を検討します。 →（現在の状況）関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いＤＶＤ製作の検討を進めます

提案9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」（危機管理課）

概要）行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催する。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができる。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。

【第４期】

提案1

若者向けにアプリ、メールで関のお店情報の配信を（安心メール活用）（市民協働課）

概要）安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加します。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案１等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やＰＲなど若者

	に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。 　あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。

提案2

関市の魅力的なお店を書いた情報紙を学生が中心に作成。それを入学式に配布する。（**市民協働課**）

概要）現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げては如何でしょう。市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布します。

結果	採用
担当課からの回答	市が特定のお店を紹介した情報紙を作成することは困難ですので、学生自治会が中心に実施していただくことが良いと思います。サポートとして、「関市市民活動センター」に入ってもらい、市民から見た情報なども盛り込めると良いと思います。関市のお店情報を観光情報などと併せて、大学の学生自治会に作成、配布していただき、それに対して市民活動助成金で支援します。観光情報やお土産情報、さらに市内のバス運行や長良川鉄道などの公共交通に関する情報が、学生向けに発信されていないことがわかります。作成にあたり、掲載する情報を、関係課と大学で打ち合わせます。

提案3

○路線バスを使った観光モデルコースをつくる
○路線バスで観光地に行くことを呼び水に、路線バスの乗り方講習会を開催（**市民協働課**）

概要）今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ります。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーを作ります。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の１日目に、案内人もついての路線バス乗り方講習会を実施します。

結果	採用
担当課からの回答	即実施予定。以前から、行いたいと考えていた事業であり、今回試行で行った板取への路線バスの旅は、想定をはるかに超える反響がありました。利用者アンケートでも大変満足度が高く、別の地域でも実施してほしいとの声も多くありました。今回の西ウイングをはじめ、東ウイング、関市街地でも季節ごとのルートがあると良いとの回答もありましたので、観光交

	流課と協議を行いながらモデルコースを作成します。

提案4

関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください（**福祉政策課**）

概要）世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態調査をする。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。

提案5

学習支援を実施してください（**福祉政策課**）

概要）定期的（週１回、２回程度）な学習支援を実施する。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施してくことが必要です。

結果	採用
担当課からの回答	市として貧困の連鎖を防止する上で、生活困窮家庭の子どもへの学習支援は必要であると考えます。当面は、活動を行っていただける市民団体を、今年度末募集のいきいき市民活動助成金(関市との協働事業)で支援しながら、将来的には、市民団体、NPO 法人、社会福祉協議会等に委託することも検討したいと考えています。

提案6

子ども食堂を実施してください（**福祉政策課**）

概要）学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	「子ども食堂」を実施する市民団体への支援をします。現在、市として具体的な支援事業はありませんが、実施する市民団体が発足した際は、補助制度、場の提供などの支援策を検討のうえ実施したいと考えております。

親子が繰り返し訪れる商店街へ

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関市周辺に住む小学生とその親が、商店主やその仕事に興味をもち、繰り返し訪れ、心のよりどころになる」という関市です。

そのために、「商店主と子どもが関わる機会が少ない」

という課題に取組むことにしました。

課題の原因は「大人も子どもも商店街の魅力を知らない、気軽に立ち寄れる商店がない、車が多く通り、危ないこと」ですが、今回は特に

「大人も子どもも商店街の魅力を知らないこと」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、

私たちは「事業の経験者がいる」という強みを生かし「子どもミュージアム商店街」

事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えます。

だから私たちは「大人も子どもも商店街の魅力に出会う子どもミュージアム商店街」をすることで、

「関市周辺に住む小学生とその親が、商店主やその仕事に興味をもち、繰り返し訪れ、心のよりどころになる」という関市を実現します。

Ⅰ　取り組んだ課題

子どもを持つ親子が商店街の魅力を知らず、関わる機会が少ない。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1．大人も子どもも商店街の魅力を知らない

関市の商店街には、和菓子屋さん、呉服屋さん、文房具屋さんなど、魅力的な商店があります。しかし、関市の親子はスーパーやコンビニを利用するため、商店街を利用する機会があまりなく、なじみがありません。そのため、商店街にどんなお店があるか、またどんな商店主がいるのかを知らず、商店街を魅力的に感じる人が少ない状態です。

2．気軽に立ち寄れる商店がない

親子が商店街を利用しない原因の一つとして、「商店に入りづらい」ということも理由に考えられます。お店に入っても、勝手が分からない上に、お店の人に話しかけづらいと感じてしまい、利用しづらいのではないかと考えました。また、商店としても、子どもが店に入ってきても、関わり方が分からないのではないかと考えました。

3．車が多く通り、危ない

商店街は道幅が狭く、自動車の出入りが多いうえ、路上駐車も多く見かけられます。歩道もありますが、自動車の出入りが多い場所に子どもだけで遊ばせたいとは思わない親も多いのではないか、と考えました。

今回は、「大人も子どもも商店街の魅力を知らない」に取り組むことにしました。

Ⅱ　取り組んだ活動

１．勉強会「町田弘法さんと商店街を通じた地域コミュニティについて話そう！」の実施

「子どもミュージアムをつくる会」代表の町田弘法さんをお招きして、子どもが商店街の仕事を体験する「子どもミュージアム商店街」の仕組みや、地域コミュニティについての勉強会を開催しました。この勉強会には、本町通り商店街の深川会長にも来ていただき、事業の理解を得ることができました。

日時：平成 29 年 4 月 30 日（日）10 時～12 時
参加者：6 名
経緯：部会メンバーの中で、「子どもミュージアム商店街」のスタッフ経験があるメンバーがいたことから、商店街と子どもをつなぐイベントとして町田さんからその手法を学ぶことになりました。この勉強会を通じて、本町通り商店街でも「子どもミュージアム商店街」を立ち上げ、実行することになりました。

第5期関市まちづくり市民会議
めざせ！体験型商店街チーム主催
勉強会

町田弘法さんと商店街を通じた
地域コミュニティについて話そう！

関市まちづくり市民会議とは、”日本一しあわせなまち関市”を目指して、市民が自ら関市の課題を見つけ、その解決方法を行政へ提言する会議です。第５期では、「目指せ！体験型商店街チーム」が発足され、関の商店街が抱える問題、特に、子どもを持つ親世帯が商店街をあまり利用していない現状の解決策を考えています。
そこで、今回は、体験型展示プログラム「子どもミュージアム」を全国各地で展開されている町田弘法さんをお迎えして、商店街と子どもをテーマに勉強会を開きます。

町田　弘法（まちだ　ひろのり）さん
子どもミュージアムをつくる会代表。1995 年に教師・主婦・学生などを中心に「京都子ども博物館を広げる会」として発足。
体験型展示プログラム「子どもミュージアム」を通じて子どもたちが楽しく遊んで生きていく知恵を育むミュージアムづくりを行っている。2004 年より活動拠点を滋賀に移し、滋賀県長浜市余呉町に「余呉子どもミュージアム」を常設し、他にも滋賀県内外の公民館や小学校・保育園・幼稚園などで「子どもミュージアム」を開設。2014 年より商店街を舞台に商店街を通して地域コミュニティ活性化を目指した新しいプロジェクトを始めている。

とき：平成 29 年 4 月 30 日（日）10：00 ～ 12：00
ところ：安桜ふれあいセンター2F 会議室
定員：20 名
参加費：無料
申込先：関市市民活動センター　関市千年町 2 丁目 18 番
☎ 0575－24－7772
mail：info@seki-siminkatudo.com
←または facebook イベントページ参加ボタンクリック

勉強会開催に向けて配布したチラシ

当日の勉強会の様子

２．「子どもミュージアム商店街 in 本町通り商店街」の実施

本町通り商店街の 11 店舗にて関市内の 5 歳～小学生を対象に、商店主の仕事を体験できるイベントを開催しました。

午前の部、午後の部と別れ、ハローワーク形式で子どもたちが仕事を選び、決定後各商店で 30 分程度仕事を体験し、体験後は認定証を配布しました。

参加費を地域通貨Ｖ（ブイ）に換金し、２Ｖは各商店への仕事紹介料、残りの１Ｖは参加後の店舗で利用できる通貨として配布しました。（1V＝100 円としました）

日時：平成 29 年 7 月 1 日（土）9 時 30 分～14 時 30 分
集合場所：関市市民活動センター
参加費：全日…1,000 円、午後のみ…500 円
公告方法：市内の小学校、幼稚園、保育園に配布　合計 5,500 枚
協力店舗：角鍬商店、虎屋、平賀屋、柳原茶舗、浅野屋呉服店、駄菓子屋カフェ CHABU、ヤカイヤ洋品店、たけや、丸吉寿司、中喜金物店、ねりや模型店（計 11 店舗）

各商店体験内容…

角鍬商店：いろんな魚の佃煮を食べ比べてみよう・真空パックにチャレンジ！
虎屋：和菓子を作ろう
平賀屋：専用の機械でペンに自分の名前を彫ってみよう
柳原茶舗：おいしいお茶の入れ方を知ろう
浅野屋呉服店：店員になって着付けをしよう
駄菓子屋カフェ CHABU：駄菓子の詰め合わせを作ろう
ヤカイヤ洋品店：店員になって帽子をコーディネートしよう
たけや：自分で団子を焼いて食べよう
丸吉寿司：店員になって巻き寿司を握ってみよう
中喜金物店：鍵を作ってるところを見よう
ねりや模型店：ミニ四駆博士が君のミニ四駆を早くする方法を教えます

イベント開催に向けて配布したチラシ

イベント当日の様子

お店の仕事 体験したよ

関で子どもミュージアム商店街

「買う人の気持ち分かった」

お店の職人になったよ

関市本町通り商店街 児童ら仕事体験

迫力、ジャズセッション

イベント当日の取材記事

《実施結果》

多くの反響をいただき、申込は 120 件ありました。
参加人数：60 名
収支報告：今回の事業にかかった費用をまとめました。

	区分	科目	単価	数	計	
収入の部	参加費	全日@1000×31名	1,000	31	31,000	
	参加費	午後のみ@500×29名	500	29	14,500	
					0	
					0	
					0	
					0	
		収入合計			45,500	
	区分	科目	単価	数	計	備考
支出の部	レクリエーション保険	保険対象人69名	29	69	2,001	
	のぼり着払い	のぼりレンタル	872	2	1,744	保険フジヨシ
	広告費	イベントチラシ	12,510	1	12,510	ラクスル
	備品	チャック式ストラップ名札50組	5,554	1	5,554	アスクル注文
	備品	名札	2,678	1	2,678	バロー
	備品	バンダナ@108×60枚	108	60	6,480	ダイソー
	弁当代	スタッフ弁当代	2,720	1	2,720	澤田商店
	謝金	@200×8人	200	8	1,600	中喜金物店
	謝金	@200×2人,@100×2人	100	6	600	ねりや模型店
	謝金	@200×5人	200	5	1,000	竹内製菓
	謝金	@200×13人、@100×50人	100	76	7,600	駄菓子屋カフェCHABU
	謝金	@200×10人、@100×3人	100	23	2,300	ヤカイヤ帽子店
	謝金	@200×10人、@100×2人	100	22	2,200	平賀屋
	謝金	@200×5人、@100×5人	100	15	1,500	虎屋
	謝金	@200×10人	200	10	2,000	柳原茶舗
	謝金	@200×5人	200	5	1,000	角鍬商店
	謝金	@200×13人	200	13	2,600	浅野屋呉服店
	謝金	@200×6人	200	6	1,200	丸吉寿司
					0	
					0	
					0	
					0	
		支出合計			57,287	
						△ 11,787

収入は参加費のみ、のぼり旗は滋賀県石山商店街よりお借りしました。
費用としては、名札やバンダナ等の備品購入から、スタッフの軽食代、また謝金として各店舗の地域通貨の換金に使用しました。

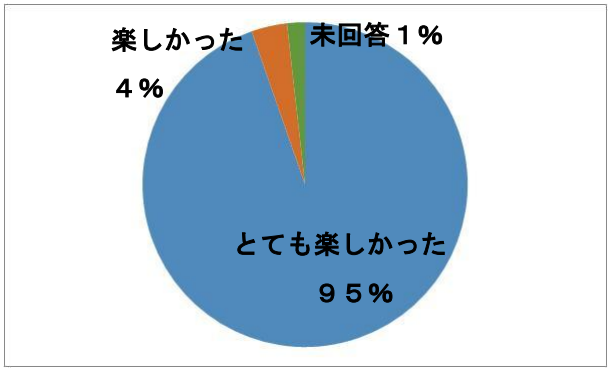
今回は参加費だけでは補えず、約１万円の赤字となりましたが、多くが初年度ゆえにかかる費用でした。このことから、参加者人数の増加や、当初年度の備品購入の補助があれば、継続して開催できると考えられます。

また、商店には参加者 1 人あたり 200 円を体験代として支払うことで、ボランティアではなく、多少なりとも収入となる仕組みです。

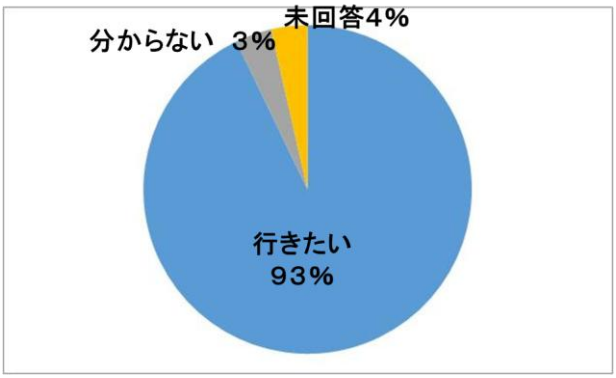
アンケート結果

アンケート回収数：56 枚（回収率 93%）

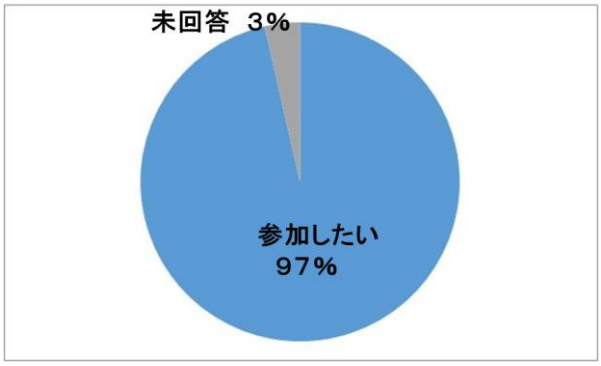
設問①：今日は楽しかったですか？



設問②：参加したお店にまた行きたいですか？



設問③：来年もあれば参加したいですか？



【参加者からのコメント】
・できない体験ができたので，またやりたいと思った。
・参加したお店や，商品についてよく知りたいと思った。
・お店のことを学べる機会がないので参加してよかった。
・どういう仕事をしているのか，よく分かって楽しかった。
・普段は通りすぎるお店も個性があっていいと思った。
・受付してすぐ行けると良い。
・体験時間がもう少し長い方が嬉しい。
・事前に希望のお店をかいて，抽選とかの方が良いかも。

【参加店からのコメント】
・参加してよかった。
・来年もあれば参加したい，参加できる。
・体験終了後，実際に商品を購入して頂いた。大変うれしい。（ヤカイヤ洋品店）
・本格的に取り組みたい　次期商店街会長　ねりや模型店塚原様より

Ⅳ　その成果と見えてきた課題

《成果》

①親子からの子どもが楽しめるイベントのニーズがある

今回行われた企画は大変好評で、申込が定員の倍の 120 人からあり、参加者の 9 割以上が満足したと回答しました。どの商店も子どもたちが楽しんで体験している光景が見られました。アンケート結果から、「また参加したい」という声も多くありました。

体験を通して、商店街や商店主の魅力を知ることができました。

②参加した商店主からも好評いただけた

今回の企画は商店主からも「やってよかった」という声が得られました。普段見かけない親子が店に入ってくることで、どんなお店か知ってもらうことができたという感想から、今後も継続的に商店街で行う事を検討したいという声も頂きました。

また、地域通貨の活用により、給料分のお金を店舗で利用できるため、地域内で循環し、各店舗に還元することができました。

終了後、改めて店に会に来た親子もあったそうです。関市商店街連合会の塚原会長は、「とってもいい企画で、商店街からの費用負担も少なくできる。本気で商連で検討します」と言っていただけました。

③親も参加できる体制にしたことで、親も店になじむことができた

子どもたちを主に考えた企画でしたが、親も参加できるようにしたことで、親が店舗を知ることができました。イベント終了後も、参加した店舗へ V を使わずに買い物にきた方も見えたとのことで、親が子どもと一緒に、気軽に立ち寄れる関係づくりができたと言えます。

《課題》

①申込方法の統一性

→今回は電話、E メール、FAX で市民活動センターにて受付を行いましたが、メールが届いていないため、当日に受付をしていない方が見えました。受付側からの返信をもって受付完了の旨をあらかじめチラシに記載するなどの配慮が必要といえます。

②親子参加の旨を商店に周知できていなかった

→参加者は子どもの人数としていたため、親付きで店舗に入ることも店舗に周知できていませんでした。大きなトラブルはありませんでしたが、親も含めた人数で参加可能人数を確認しておく必要があります。

≪まとめ≫

今回の企画を実施したことで、親子、商店ともにニーズがあるということが分かりました。受け付け体制や事前の店舗への説明を漏れなく行うことで、より円滑なイベントになりうると考えられます。この企画を定期的に開催することで、親子が商店と関わる機会が増え、なじみのある商店として利用が増加することも期待できると考えられます。

Ⅴ　提案と提案理由

提案	子どもミュージアム商店街を継続して実施するための初期費用のサポートをしてください
提案する課	商工課
概要	今回の企画で、商店主からは次回も開催したいとの積極的な声が上がっています。商店街を主として、今回の企画のような親子が商店の仕事を体験できるイベントを定期的に開催することを考えています。今回は事業費として、名札や認定書用紙などに費用が掛かりました。のぼりは特別に勉強会でお招きした町田さんからお借りすることができましたが、今後はのぼり代も含めると、50万円ほど初期投資に費用が掛かります。 市には、継続的に事業が行われるための、実行委員会の発足の働きかけや、初年度のみ費用の補助及び事業の宣伝活動をお願いします。

提案の理由	今回のような企画は、商店街が主で働きかけなければなりません。しかし、継続的に取り組むための仕組みづくりや、初期費用の負担、また宣伝活動は商店街だけではとても負担が大きいと考えられます 市と協働することで、実行の負担を軽減し、また、市と関連のある教育委員会等と通じることで、宣伝効果も高いと考えられます。

鵜飼から小瀬・池尻観光へ

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「鵜飼に来た観光客が、小瀬・池尻の遺跡や円空のゆかりの地であることを知り、こちらにも観光していく。」という関市です。

そのために、「遺跡や円空がごく一部のひとにしか知られていない。」

という課題に取組むことにしました。

課題の原因は「宣伝不足、話題性がないこと、統一イメージ・キーワードがないこと」ですが、今回は特に「統一イメージ・キーワードがないこと」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「歴史が得意」という強みを生かし「小瀬・池尻観光モニターツアー」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「統一イメージ・キーワードを持った小瀬・池尻観光モニターツアー」をすることで、

「鵜飼に来た観光客が、小瀬・池尻の遺跡や円空のゆかりの地にも足をのばす」という関市を実現します。

Ⅰ　取り組んだ課題

弥勒寺官衙遺跡や円空が関市の池尻のごく一部の人にしか知られておらず、鵜飼に来た人が鵜飼のみで帰ってしまっている。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

１．宣伝不足

２．話題性がない

弥勒寺官衙遺跡は国指定遺跡に指定されたにも関わらず、まだ整備段階ということもあり、積極的に宣伝ができていません。鵜飼にくる観光客にも、この弥勒寺や円空の魅力を進めるパンフレットや看板があるわけではありません。

３．統一イメージ・キーワードがない

こ小瀬、池尻地域には弥勒寺官衙遺跡、円空館、円空入定塚、円空のお墓などの円空の関連スポットや、池尻古墳、長良川、そして鵜飼など、たくさんの観光スポットが集積しているにも関わらず、それを統一的なイメージがなく、バラバラで発信されています。

今回は、「統一イメージ・キーワードがない」に取り組むことにしました。

Ⅱ　取り組んだ活動

「小瀬・池尻周遊観光ルートの提案とモデルツアーの実施」

小瀬・池尻の観光スポットと巡るツアーを実施しました。
日時：平成２９年６月１４日（月）14 時から 16 時半
参加者：１２名
コース
① 円空館→②円空のお墓→③弥勒寺官衙遺跡→⑤鵜の家足立→⑥円空入定塚→⑦展望台

岐阜新聞　2017年（平成29年）6月20日（火曜日）　中濃　14

小瀬、池尻 魅力探れ

モニターツアー 住民ら史跡など見学

関市の小瀬鵜飼を見に来た観光客に周辺の史跡や名所も楽しんでもらうため、市民やボランティアガイドらが周辺の小瀬、池尻地区を回って魅力を発見するモニターツアーが開かれた。ツアーで出された意見は七月中旬に市長に提言する。（本間貴子）

弥勒寺史跡公園を見学する参加者＝関市池尻で

市民が地域課題の解決策を考える「市まちづくり市民会議」の「小瀬観光協会（仮）」チームが主催し、十二人が参加した。小瀬、池尻地区の他の観光資源を知らない鵜飼観光客が多いため、魅力を再発掘してPRし、地域一帯を盛り上げていきたいと考えた。

ツアーでは、市円空館や弥勒寺官衙遺跡群、鵜飼のまわし場、展望台などをゆったり歩きながら回った。ボランティアガイドの説明もあり、参加者は和気あいあいとした雰囲気で意見や改善点などを出し合っていた。

小瀬地区の足立雄司区長（六九）は「地元の人は意外と地元を知らない。地区の魅力を広めるツアーはありがたいこと」と話し、参加した同市緑ケ丘の主婦川崎秀子さん（六五）は「円空さんのお墓が林の中にあるとは知らなかった。市内なのに初めて行ったところばかり」と感想を話していた。

同会議を実施している市民活動センターの北村隆幸さん（三七）によると、ツアー参加者の満足度は高く、アンケートでは「一人で行ったら知らなかった場所が多い」「官衙遺跡群の復元図をVR（仮想現実）で立体的に見られたら」「円空館の西にある古墳に何も説明がなく気付かない」などの意見が出された。

これらを基に、市には今後、観光ガイドの養成、鵜飼乗船場を起点としたマップの作製、鵜飼観光客への歴史探索ツアーの呼び掛けなどを提言する方針という。

中濃

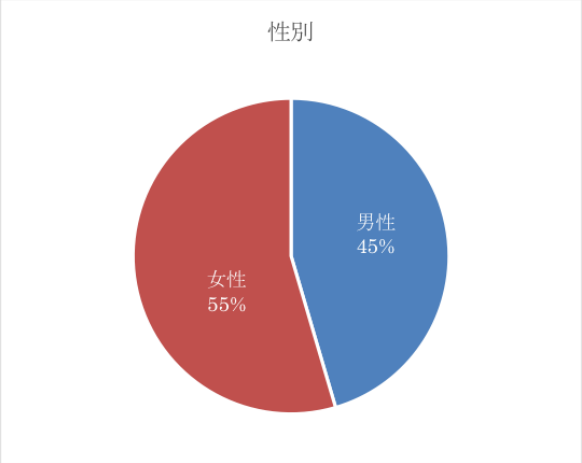
紙風船
桑の実グループ 前原 喜美枝
（多治見市美坂町）

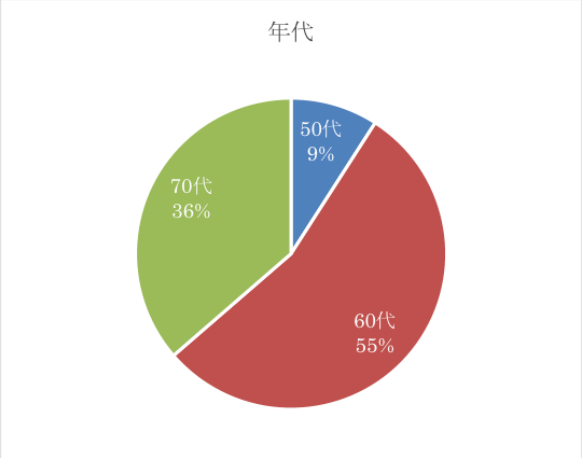
関支局
〒501－3242
関市東福野町5－12
0575（22）3234
Fax（24）3939
美濃加茂通信局
0574（25）7788
Fax（25）7669
郡上八幡通信局
0575（67）1077
Fax（66）0051
白鳥通信部
0575（82）2367
Fax（82）3990
岐阜支社
〒500－8875
岐阜市柳ケ瀬通一丁目12番地
058（265）0191
Fax（262）8706
（販売）（265）0265
（広告）（266）4791
（事業）（265）0267

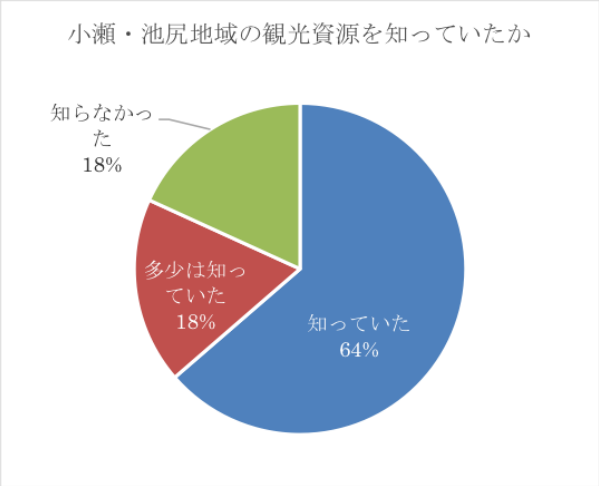
内科・消化器内科
しもむ
岐阜市

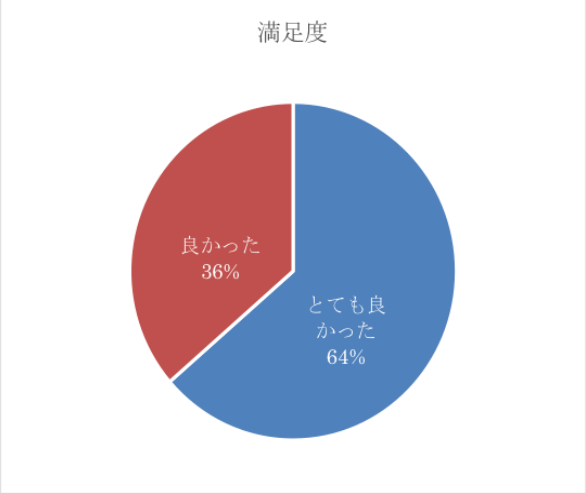
《実施結果》

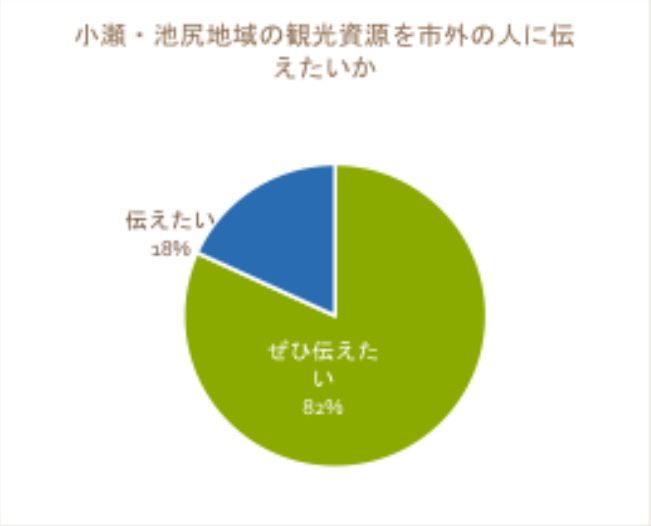
参加者から大変好評を得ることができました。











Ⅳ　その成果と見えてきた課題

《成果》

アンケート結果から、参加した全ての人が「良かった」と回答していただきました。また、全ての人が、小瀬・池尻の観光資源を市外の人に伝えたいとの回答でした。

《課題》

①看板／マップがない

→弥勒寺遺跡には看板が設置されているが、古墳にはない。まだまだ説明が必要な場所がたくさんある。

②看板がある場所もあるが、看板だけでは伝わらない

→案内して初めて魅力が伝わる。

③鵜飼からこの地域の観光につながる動線がない

→鵜飼乗船場までの観光客の動線が必要。

Ⅴ　提案と提案理由

提案１	鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください
提案する課	観光交流課
概要	鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください 。 将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための ・ガイドの育成 ・ツアーの企画 ・立ち上げの広報等 のお手伝いをお願いします。

提案２	鵜飼乗船場に、「小瀬・池尻周遊観光」の看板を設置してください。
提案する課	観光交流課
概要	まずは、この地域を広く活かして行くために、鵜飼乗船場に周遊の看板を設置してください。 看板には、円空、弥勒寺官衙遺跡、池尻古墳についても、ぜひ記載してください。

提案３	「小瀬・池尻周遊観光」のマップを作成してください
提案す	観光交流課

る課	
概要	看板と同時に、周遊をするためのマップを作ってください。 設置場所：鵜飼乗船場、各鵜匠の家、関観光ホテル，円空館、市内の各スポット等

提案の理由	１．このツアーを作ることで、歴史好きな人、円空好きな人が、鵜飼を知り、鵜飼見学もしてみたくなるという効果も考えられ、鵜飼にも相乗効果があると考えます。 ２．岐阜市の鵜飼乗船者にとっても、川原町の歴史的街並みを楽しめることも魅力の１つになっています。小瀬鵜飼にとっても、鵜飼プラスアルファの魅力をつけていくことが大切だと考えます。「あるものを活かす」視点でみれば、この地域の魅力の点を面に広げて１つの観光パッケージにしてお客さんに提案することが大切だと考えます。

Ⅴ　今後の展開

１．観光の点を線でつなぐことを提案しました。ただ、本来は点の魅力をもっともっと磨いて行く必要があると考えます。その意味において、弥勒寺官衙遺跡の当時の建物の様子がバーチャルで見られるようにすることや池尻古墳の整備などが必要です。ぜひそれを早急に進めてください。

２．１．の整備は、今後の文化課を中心とした市の計画にもあると聞いています。その際、ぜひとも観光と連携して観光的視点も入れて整備していってください。

３．長良川は世界農業遺産に認定されたが、関市民はその恩恵を感じられていません。
・世界農業遺産を見ることができるスポット
・長良川の天然鮎の美味しさを若い人達にも知ってもらう
このような施策を模索していきたいと考えています。

関の大学生が将来的に関市に根付く機会を！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関の大学生が将来的に関市に根付いている」という関市です。

そのために、「大学生が関市との接点がない」という課題に取組むことにしました。

課題の原因は「移動手段がない、関市の店舗やイベント情報を知る機会がない、学校と関市との接点がないこと」ですが、今回は特に「関市の店舗やイベント情報を知る機会がない、学校と関市との接点がないこと」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、私たちは「市民会議メンバーに学生がいる」という強みを生かし「大学生食べ歩きツアー」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「関市の店舗やイベント情報を知るための食べ歩きツアー」をすることで、「関の大学生が将来的に関市に根付いている」という関市を実現します。

Ⅰ　取り組んだ課題

①関市の店舗やイベント情報を知る機会がない。

②学校と関市との接点がない。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。部会メンバーには、現役大学生が 2 名いたことから、学生ならではの視点で課題を考案しました。

1. 移動手段がない

関市には中部学院大学、岐阜医療科学大学、中日本航空専門学校の 3 つの大学・専門学校があります。しかし、どの大学も近辺に飲食店などが少ないため、授業の合間や、帰宅時に気軽に寄れる場所もなく、そのまま自宅に直帰してしまう学生が多くいます。また、移動手段も自動車・自転車を持たない学生は、飲食店などに行きたくても、行けないという課題があります。

2. 市内の店舗やイベント情報を知る機会がない

関市にはなじみのある飲食店やスポット、魅力的なイベントが沢山あります。イベント情報は、広報せきなどで得られますが、住民票を移していない学生が多いため、広報せきが届かない場合が多いと考えられます。広報せきが届いていないということは、イベント情報だけでなく、関市で生活する上での必要な情報も学生に届いていないことになります。また、気になる飲食店やスポット、イベントがあっても、一緒に行ける仲間がいなければ、なかなか行くことができません。関市の魅力的な情報や、一緒に体験できる学生は求めているのではないかと考えました。

3. 学校と関市との接点がない

学生が関市に関心を持ちにくい原因としては、自身の生活や興味分野と関市との関係性が見えにくいことが挙げられます。学生は勉学や部活・サークル活動、アルバイトなどでとても忙しい毎日を送っており、まちづくりやボランティアに関われる人も限定されます。そこで、日常の生活に関市へ興味を持つきっかけづくりとして、大学で関市のまちについて学べる機会が必要ではないかと考えました。

今回は、「市内の店舗やイベント情報を知る機会がない」・「学校と関市との接点がない」ことに対して、取り組むことにしました。

Ⅱ取り組んだ活動

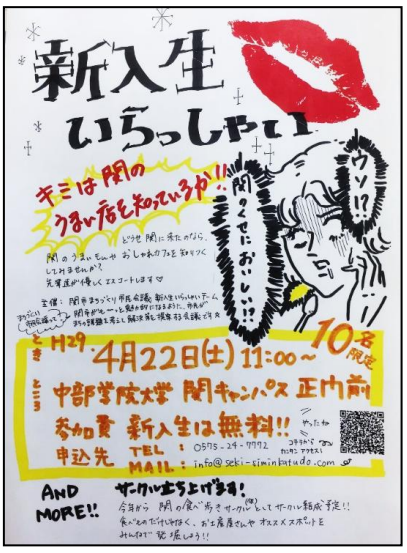
「大学生食べ歩きツアー」の実施（計２回開催）

（①・②共通）：まちづくり市民会議メンバーの案内の下、関市のカフェやお土産屋さんなどの店舗を回る。店舗を周遊しながら、交通手段や、普段立ち寄る店など、学生の現状についてヒアリングする。

①日時：平成 29 年 4 月 22 日（土）11 時～15:00
集合：中部学院大学正門前
参加費：無料
対象：関市の大学生
開催場所：カフェ マビッシュ、駄菓子屋カフェ CHABU、たけや、関サービスエリア
参加者：3 名

②日時：平成 29 年 5 月 28 日（日）11:30~15:00
集合：岐阜医療科学大学正門前
参加費：無料
対象：関市の大学生
開催場所：Kitchen GRATO、中池公園、Applepiecafe GRACEE GRACY
参加者：5 名

経緯：関市の大学生に関の魅力的なスポットを紹介することを目的としました。学生が行ったことのない場所や、今後学生が自分たちでも立ち寄れる場所を考案しました。また、企画内で学生の生の声を聞き、大学生が関市と関わりがないのか、どのような情報がほしいのかということを調査し、ニーズを確かめることになりました。



大学等へ配布したチラシ

イベント当日の様子

関のお店でくつろいで♪

市民団体 大学生向けツアー

関市の大学生や若者に地元のカフェや飲食店を紹介するツアーが、市内で開かれた。若者に関の魅力を知ってほしいと、市の課題解決策を市民が考える団体「市まちづくり市民会議」が主催。市内にある中部学院大や岐阜医療科学大に通う学生の多くは市外の出身で、普段の生活で地域を知る機会が少ないのではと企画した。

中部学院大の学生五人が参加し、市内のカフェや和菓子店など四カ所を食べ歩いた。西本郷通の駄菓子屋カフェでは、屋台のおやつ「玉せん」を食べながら、居間のようなスペースで雑談で盛り上がった。

参加した高山市出身の国政麻琴さん(二)は「関市は刃物のイメージが強い。おしゃれなカフェを知りたくて参加した」、飛騨市出身の下嶋祥子さん(二)は「知らなかった店に行けてよかった」と話していた。(本間貴子)

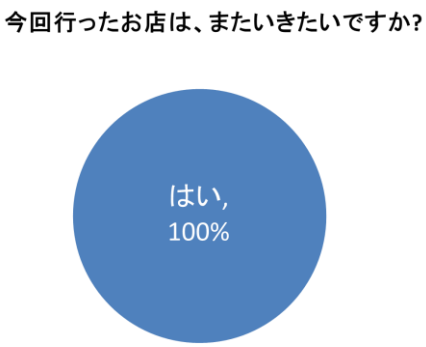
駄菓子屋カフェで雑談を楽しむ学生ら＝22日、関市西本郷通で

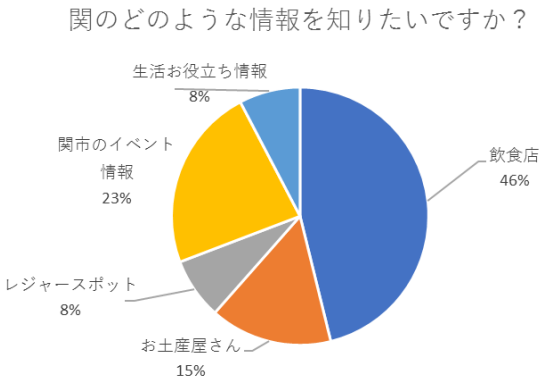
イベント当日の取材記事－中日新聞

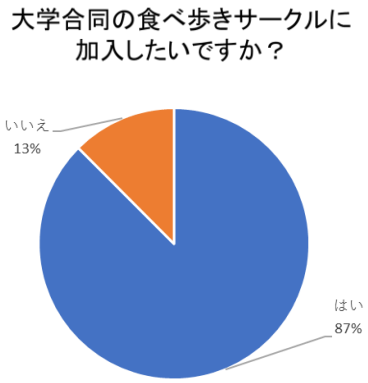
《実施結果》

参加者：①3 名、②5 名　計 8 名

アンケート結果
アンケート回収数：13 通（回収率 100%）







アンケート結果については、上記のようになりました。
また、ヒアリングを行った結果、

・自身の家は広報が回ってくるため、生活の上で役立っているが、届かない学生には不便に感じるのではないか
・授業が細かく組まれているので、単位付きの授業で関のことを学びたい
・食べ歩きサークルには非常に興味がある、ぜひ結成してほしい

Ⅳその成果と見えてきた課題

≪成果≫

①アンケート結果から、すべての人が「また行きたい」と回答していただけました。
これは、関市には学生が満足できるスポットもあるのに、知らないという現状が浮き彫りになりました。

②食べ歩きサークルに参加したいという声が多かった
今回の結果では、食べ歩きサークルの結成に強く意向を示した学生が多くみられました。個人ではなく、仲間同士で関市のスポットを知りたいということが分かりました。

≪課題≫

①集客が悪かった

今回は中部学院大学、医療科学大学にチラシを設置させていただきました。しかし、集まった人数が少なく、大学生全体に周知していく方法が必要と考えられます。

②スポットの下調べが不十分だった

今回行った店舗は、市職員や市民活動センター職員の主導となり、会議メンバーも知らない店舗を回ることとなりました。そのため、サークルを立ち上げた際には、案内役やスポット情報の提供者が必要となります。

≪まとめ≫

今回の企画は集客が少ない結果となりましたが、一人一人の学生にじっくりと話を聞くことができました。参加者のほとんどが関のスポットを知りたいという気持ちが強く、今回参加していない学生にも、同じ気持ちを持った人がいるのではないかと考えられます。今回のイベントから、チラシだけでなく、あらゆる手段で彼らに情報を提供することが必要だとわかりました。

Ⅴ　提案と提案理由

提案１	大学と市が連携した講義を提供してください
提案 する課	市民協働課
概要	関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。 実際に、中部学院大学からは、関市との連携した授業を開いてほしいという要望もあり、大学側からの需要もあります。 期を通しての連続授業をやれることが望ましいのですが、困難も予想できるため、まずは、どこかの授業の１コマからはじめて行くことが良いと考えます。

提案２	大学と市民合同の関市を知って楽しむためのサークル活動立上げに対してコーディネーターを置く支援をしてください
提案 する課	市民協働課
概要	今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。 今回の企画の課題からも、市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内でできるようにしていくことが望ましいと考えます。

提案３	広報せきに大学生向けの情報の提供をしてください
提案 する課	秘書広報課
概要	広報せきは関市の暮らしの情報が詰まった、とても便利な情報誌です。住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。 配布先：学生寮、各大学 大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

	また、そのページには、提案２のサークルが作り手になる等大学生を巻き込んでのページにしていただくことが望ましいと考えます。

提案の理由	１．日々の授業や部活・サークル活動、アルバイトで忙しい学生にとって、関市に関心を持ってもらうためには、大学にいる時間に関市との接点を持つことが必要です。学業として学生が関心を持つ分野に、関市から現場の実情が分かる授業を提供することで、学生が就職を考える際にも、関市を選択に入れる可能性が高まると考えられます。 ２．初めての場所を一人で訪れるということに抵抗を感じる学生がいます。仲間で訪れられるように、サークルの立ち上げを考えました。今回の企画では情報の提供者が必要ということが分かり、その提供者として、また大学間のつなぎ役として市職員や市が任命する市民に担ってもらいたいと考えます。 ３．関市は関へ定住、通勤、通学する人も含めて「関市民」と定義しています。広報せきが関市の大学生に届けられていないということは、市民として必要な情報がいきわたっていないということではないでしょうか。また、初めての一人暮らしをする学生も少なくありません。学生ならではの情報を学生と一緒に提供する媒体として適すると考えます。

平成 29 年 4 月 22 日・5 月 28 日

大学生食べ歩きツアー

平成 29 年 6 月 14 日

小瀬・池尻観光モニターツアー

平成 29 年 7 月 1 日

子どもミュージアム商店街 in 本町通り商店街

第 5 期まちづくり市民会議

委員　チーム「目指せ！体験型商店街」：田中利弥（リーダー）/ 佐藤敦 / 沼田豊 / 山田銑次 / 古田嘉昭

チーム「小瀬・池尻周遊観光」：包子賢一（リーダー）/ 多田富士夫 / 上野まゆみ / 安田稔 / 土屋隆

チーム「新入生いらっしゃい」：大場友貴（リーダー）/ 坂元広幸 / 臼田好希 / 平川貴久

発行日　2017 年 7 月 15 日

発行　関市まちづくり市民会議（事務局：関市市民活動センター）
関市千年町 2-18-1　安桜ふれあいプラザ 1F
TEL 0575-24-7772　FAX 0575-24-7660
emai: info@seki-siminkatudo.com